

学びのイノベーション

教科型研究協力校&研究協力員との授業研究



本研究テーマで取り組んだ今年度の研究の主張点は、熊本型授業の質を高めたことと、アクティブ・ラーニングによる深い学びを求めたことである。学びのイノベーションによる「授業観の転換」で、子どもたちが主体的に学びとる授業を展開してきた。

特に、研究2年目ということで、全教科・領域及び全校種において、21世紀に求められる資質・能力として示された「実践力」の各要素を育成する学習活動を工夫し、検証を図ってきた。

児童・生徒の学びを「引き出し」、児童・生徒が自らの学びを「振り返り」、その学びを「支える」効果的なICTの活用と学びのUD化について、より多くの実践から研究提案する。

本パンフレットでは、右に示したポイントについての概要と各教科・領域等の見所を載せている。

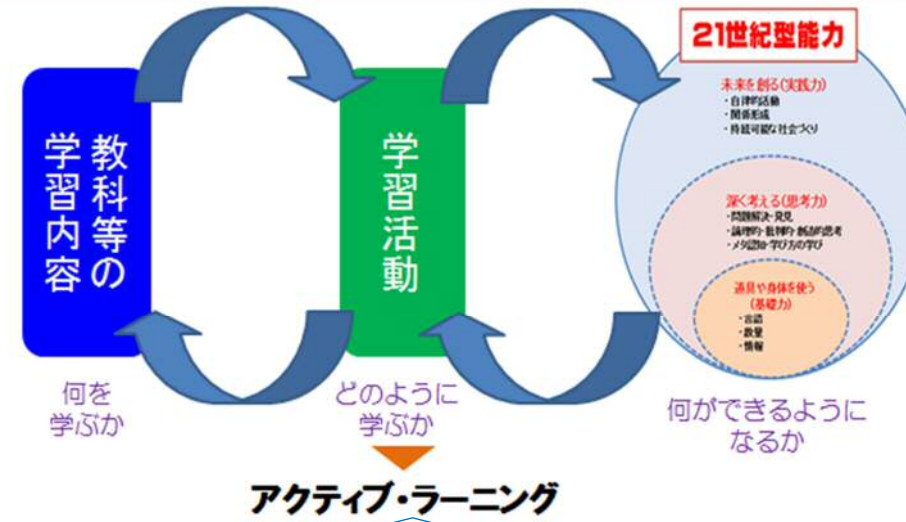
詳しくは、県立教育センターホームページをご覧ください。

本年度の授業研究のポイント

- ポイント①**
求められる資質・能力を育成する「学習活動」
- ポイント②**
「問い」で学習活動を生む
- ポイント③**
「思考過程を可視化」して学びと評価の一体化
- ポイント④**
自らの学びに気付く「振り返り」

育てたい資質・能力と教科の内容をつなぐ、学習活動を仕組む！

育てたい資質・能力と内容をつなぐ、学習活動への注目



本研究では、平成27年3月に国立教育政策研究所から示された「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～」を参考にして、左図に示されたような捉えで、学習活動を組み、授業の構成を図った。

特に、研究の手段とした「協働・協調的な学び」を学習活動に位置付け、「問い」による工夫で、深い学びを提案してきた。

本研究で言う、「アクティブ・ラーニング」とは『「問い」の工夫により、子どもの思考が常にアクティブになる学習活動の展開』と捉え、下に示したモデル図のように「個」と「協働」による学びが重要であると考えます。

21世紀に求められる資質・能力を育成する協働・協調的な学びとは？

個の学び 自律的活動

期待される姿①
「この課題に自分はどう向き合うのか。」
「自分は、どんな答え（仮説）を持つのか。」(学習経験・生活経験)

期待される姿③
「自分が予想した考え方は〇〇だから、□□から調べてみよう。」(焦点化)
「自分の考えとする根拠は…」



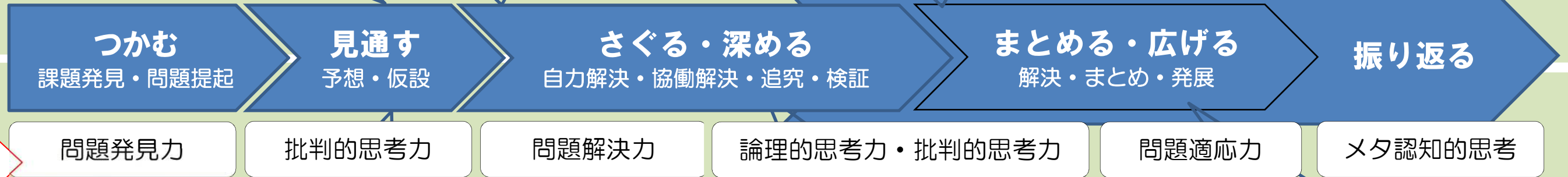
期待される姿⑤
「学習課題（問題）に対する答えは、〇〇である。」
「〇〇については、□□だということが分かった。」

期待される姿⑦
「最初の自分は〇〇と考えていたけど、□□さんの△△という考えで〇〇のように変わった。」
「個の学習で、□□ができるようになった。」
「今日学んだことを、次は〇〇に生かしたい。」

問題解決的な学習
課題解決学習
探究型学習など

これらの学習過程
(学びのプロセス)
によって、思考力を
中核として学習が
展開される。

単元モデル・一単位時間モデル(例)



協働する学び 関係形成

期待される姿②
「わたしは〇〇と予想したけど、みんなは違う視点から考えているのね。」
「みんな同じ予想(考え)ばかりだったけど、違う視点からも考えてみようか。」



期待される姿④
「わたしは〇〇と考えました。理由は、□□の資料から△△だからです。」
「〇〇さんの考えは、確かに□□ですが、わたしは少し違って、△△と考えました。」
「〇〇さんと同じ考えですが、理由が違います。」
「きっと〇〇さんの考えは、△△だと思います。」

期待される姿⑥
「みんなで〇〇と考えてきたけど、もっと違う視点から考えてみよう。」
「〇〇や□□という考えを聞いて、それぞれを活かした△△という考えもいいんじゃないかな。」